

安心のまちづくり—福祉と防災のまちをめざして



福祉住居コーディネーター資格を取得した学生が主に所属する「美浜発☆住まいるプロジェクト」では、約1年前から「福祉のまちづくり」という観点から、“防災の住環境”について地域のイベントや行政とのワークショップに積極的に参加するなど活発な活動をしています。

現在取り組んでいるプロジェクト、これからの活動について代表飛石君（福祉経営学部3年）と前代表の五十嵐君（同学部4年）に聞きました。（インタビュー：尾嶋）

9月2、3日に「美浜町リフォーム相談会」に参加しました

「美浜町リフォーム相談会」は、美浜町商工会の建築関係者が高齢者が住みやすい住居にするために、毎年約10件の高齢者宅に無料で手すりを設置する活動です。この活動に「美浜発☆住まいるプロジェクト」が昨年参加しています。

今回は、去年の積極的な参加が認められ、商工会から調査から一緒に活動しないかと声を掛けていただきました。

また、今回のプロジェクト前に、高齢者を対象に住居環境についてアンケートを実施しました。数回行われたワークショップではその意見も踏まえ、本学生だからこそわかる老人の行動など、細かい指摘についてはプロも知らないことが多くあり、今までの活動を通じて貴重なアドバイスや意見交換をすることができました。

学生は技術力はありませんが、活動を通じて資格を取得したことの自信や住民の信頼を得ることができました。

現在は手すりの設置については、地区ごとの老人会などを通じて高齢者との交流を増やし、今後は家具の取り付けにも取り組んでいきたいと思いました。



10月19日の「安全の日」に報告会・観劇会を実施

日本福祉大学では、毎年10月19日は「安全の日」と定め、防災について、全学を通じて避難訓練や公演会などが行われています。今まで「安全の日」には、学生主催の企画はありませんでしたが、「住まいるプロジェクト」の発足を機に実施することとなりました。学生たちは、地域の方々に演劇鑑賞に『参加』することで防災についての関心をもってもらうことを目標としています。

また、五十嵐君、飛石君からは、「学生・地域の人でホールをうめたい」との意気込み

を聞くことができました。

当日は、高齢者アンケートの報告を含めた活動報告を行い、阪神・淡路大震災時の災害現場について劇団 PEOPLE PURPLE の演目「オレンジ」を通じ、改めて防災の必要性、理解を深めてもらいたいということです。

このイベントについては広報誌「みはま」にも掲載することとなり、学内だけでなく、学外からも多くのたくさん来てもらえることが期待されます。

住まいるプロジェクトの活動

(2005年12月～)

2005年

12月14日

第4回 ワークショップ

(講演：静岡文化芸術大学

坂本 轍司氏)

2006年

1月26日

知多信用金庫「夢サポート事業(助成金付与事業)」に初の学生プロジェクトとして採択される

1月～3月

「高齢者にやさしいまちづくり推進のためのアンケート調査」実施

4月

イオン東浦店で防災啓発イベントに参加

9月2日

南知多町豊浜港総合防災訓練に参加

9月2、3日

「美浜町リフォーム相談会」に参加

『安全の日』
イベント

日時：2006年10月19日(木) 13:15～ 開演

場所：日本福祉大学

美浜キャンパス 文化ホール

美浜町での現代 GP プロジェクト

活動
報告・計画住民の防災の意識が
向上しています

南知多町防災訓練に参加しました

9月2日、愛知県と南知多町の総合防災訓練が南知多町豊浜漁港で実施されました。

今回学生は、社会教育センターのボランティアコーディネーター（※）の指示を仰ぎながら、参加させていただきました。

この訓練で学んだことは、“情報”をいかに入手し、活かせるかということです。実際災害にあったときに、情報を早急に統括し、判断できるかが試されます。

この訓練では多くの地域住民が被災者役として参加し、防災に対する意識が高まったことが伺えます。

また、今回の訓練でさらに課題となったことは、「地区と学生の交流がない」ということです。

しかし被災した時、学生のいる地域は他のまちとは違い、たとえ被災しても体力的な

面で“救済者”にもなれると思いました。

このような地域での防災訓練にも多くの学生が参加できるようにすればさらに防災に関しての意識も向上することが予想されます。

今回は大規模な訓練でしたが、今後もこのような機会に地域住民と学生が防災訓練を一緒に行うことに、「学生が地域住民の意識を変える」くらいの信頼を築きたいと言っていました。



※ボランティアコーディネーターとは？

ボランティアコーディネーターは災害だけではなく、様々な場面で現在活躍しています。

【定義】

市民のボランティアな活動を支援し、その実際の活動においてボランティアならではの力が発揮できるよう、市民と市民または組織をつないだり組織内での調整を行うスタッフ

神戸で防災ネットワーク調査を行いました

住まいるプロジェクトが考える…

阪神・淡路大震災を教訓にした防災のまちづくりとは？！

災害にあったことを教訓をいつまでも忘れない“継続性”が大切だと思います。

今回のプロジェクトテーマでもある「福祉のまちづくり」というテーマから地域特有の特色も知ることが必要なのがまちづくりで必要な課程です。

そのためにも今後、長い期間で地域の活動に積極的に参加しつつ、それを今までの災害での教訓と結びつけて、続けていきたいと思っています。

NPO 団体との交流で聞きたいこと

今回、ゼミの先生の紹介から今回防災ネッ

トワークの方のお話を聞くことができました。今回の調査結果は、次号で報告したいと思います。

この機会を無駄にしないように、まちづくりで必要なものは何かを見つけれたら成果があるといえます。

神戸での
フィールド調査

阪神・淡路大震災記念
人と防災未来センター

特別養護老人ホームけま喜楽苑

NPO法人「西須磨だんらん」